防災訓練の事例集（令和８年度）

◆ はじめに

この冊子は、市民の皆様が訓練を計画する際の手掛かりにしていただくために作成しました。本冊子にあげた訓練の方法は一例です。訓練に慣れるに従い、地域の特性にあった、効果的な訓練方法を創意工夫し、防災意識の向上につながる訓練を行ってください。

◆ 訓練を行う前に、まずは…

地域の特性を知る

自分の住んでいる地域について、防災の観点から点検を行い、崖や看板、ガラスの落下など危険と思われる場所や安全な場所を把握する。また、公民館、病院、公園など役に立つ施設がどこにあるかといったことを把握します。

災害を知る

地震・津波・風水害その他災害に関して、発生のメカニズムなどについての知識を習得し、災害と被害の関係について学習します。

人を知る

地域にどのような人がどのような時間帯に存在し、どの程度の活動が可能かを知っておくことが重要です。また、お年寄りや身体の不自由な方など災害時に支援が必要な人、救助活動ができる人の把握に努めます。

正常性バイアスとは

危険な状況であっても、ちょっとした変化なら「日常のこと」として処理してしまう人間心理のことをいいます。例えば、災害の被害が出ることを想定できても、危険が迫っていても、自分だけは大丈夫だろうと楽観視する傾向です。これらのバイアスによって、避難が遅れて被害が拡大したケースが、多くあります。このような心理作用について学んでいくことは、災害時に慌てず行動するためには必要なことです。

◆ 協力要請

「防災訓練の事例集（令和８年度）」4 ページ以降の任意訓練については、関係機関等へ協力を要請することができます。

依頼先は、①宗像地区消防本部　②市消防団　③自衛隊　④ふくつ防災士会
市を通じてお申し込みください。

1　必須訓練

（1）目的

身の安全確保、出火防止、初期消火など地震発生直後に行う行動を習得する。

（2）訓練内容

◇ 大きな揺れを感じた時（地震発生時：0分～1分）

揺れを感じたらまず、落ちついて、テーブルの下や家具などが倒れてこないスペースで身の安全を確保する。【シェイクアウト訓練】

◇ 揺れが収まった時（1分～5分）

・ コンロなどの火を消す。ガスの元栓を閉め、電気のスイッチとブレーカーを切る。
・ ドアを開け、避難路を確保する。
・ 家族の安否を確認する。
・ ラジオや携帯電話などで情報収集する。
・ 火災が発生したら初期消火を行う。自分で消火できない場合は、大きな声で近所に応援を要請する。

◇ 避難開始（5分～10分）【避難訓練】【集合点呼訓練】【状況等把握訓練】

・ 家屋の倒壊の恐れがある場合や避難情報が発令された場合は、非常時持ち出し品を確認し、隣近所で声を掛け合って避難する。要支援者に対しては、特に配慮し避難する。
・ 安否状況、家屋の倒壊、道路の陥没など、避難中に収集した情報を地域の情報班に伝達する。

※ 訓練は、避難場所で隣組別で集合点呼を行って終了となります。

★ 集合点呼訓練の実例として、事前に組毎に訓練の参加者の名簿を作成し、訓練当日、避難場所で名簿に記載されている方が避難してきたか点呼をとるといったものがあります。

★ 令和 4 年度に必須訓練として実施したタオル掛け訓練については、令和 5 年度以降は、任意の取組みとしています。タオル掛けは、災害時に無事であることを周囲に伝えるために、玄関や門扉など外から見える場所にタオルを掛けることで、救助を必要としないことを知らせ、救助隊や近所の人々に安否を知らせることを目的とする取組みです。

（3）準備用品（例）

非常持出袋（保険証、証書類、現金やカード、非常食、飲料水、携帯電話の充電器、万能ナイフ、ラジオ、衣服、ヘルメット、救急医薬品、軍手、カッパ、生理用品、防犯ブザーなど）

※日常の生活で使用している必要な物（眼鏡や入れ歯、補聴器、乳幼児の玩具などの予備があれば尚良い）を忘れずに。

　非常持出袋の中身（非常持ち出し品）の確認だけでなく、実際に持ち出せるか否かを確認することも重要です。訓練で実践してみてください。

★ 必須訓練をアレンジして、後に紹介する任意訓練と一体的に実施しても構いません。なお、任意訓練の災害想定は自由です。

2　情報収集・伝達訓練（任意訓練例）

（1）目的

災害発生直後、住民は不安の中で情報を求め、また、市も地域の情報を求めている。この様な中で、不確かな情報やデマで混乱しないように、いち早く地域の情報を収集し、正確な情報を伝える方法を習得する。

（2）訓練内容

◇ 防災関係情報の収集訓練

・ 自主防災組織の災害対策本部（以下、「自主防災本部」と言う。）を設置し、市災害対策本部からの情報や気象情報などを、防災行政無線、広報車、テレビ・ラジオなどの報道機関から情報収集する。
・ 情報班を編成し、収集した情報をとりまとめ、自主防災本部で、ホワイトボードなどに記載し情報共有を図る。

◇ 地域の避難・被害状況等の情報収集訓練

・ 自主防災本部において、避難住民の確認及び安否確認を行う。また、避難した住民から避難する際に得た情報（要救助者、建物・交通路等の破損など）を自主防災本部に伝え、自主防災本部はその情報を、ホワイトボードに掲示した地区内の地図上に集約する。
・ 情報班は、「いつ」、「何が」、「どこで」、「どうした」の順にまとめる。
・ 自主防災本部は、まとめた情報を市災害対策本部に電話等で連絡する。

◇ 情報伝達訓練

・ 市の発令した避難情報や、テレビ・ラジオなどから得た情報を、自主防災本部でわかりやすい伝達文にして、伝達にあたる情報班員にメモで渡す。
・ 情報班員への伝達は、口頭ではせず、必ずメモで伝達する。
・ 情報班員は、地域分担して巡察し、サイレン付きメガホンなどを使って伝達する。
・ 聴覚等に障がいのある人、日本語が不自由な外国人などへの情報伝達に配慮する。

★ 自主防災組織とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚、連帯感に基づき、自主的に結成する組織で、災害による被害を予防し、軽減するための活動を行います。本市でも、自治会など地域活動の組織を活かして結成されています。

3　報告訓練（任意訓練例）

（1）目的

　市と各郷づくり推進協議会、郷づくり推進協議会と自治会の連絡体制の強化、及び構築を図るとともに、市内の避難状況を把握することとする。

（2）訓練内容

報告事項

① 報告団体名、報告者氏名

② 郷づくり推進協議会ごとの訓練（必須訓練・任意訓練）の参加者数

③ 特記事項（傷病者や資機材の破損等の報告や伝達事項）

タイムスケジュール等	訓練内容
午前 8 時 45 分 ～午前 9 時 30 分	発災（訓練開始） シェイクアウト訓練、集合点呼訓練 ↓ 自治会は、訓練参加者数を各郷づくり推進協議会に報告
午前 11 時 00 分まで	↓ 各郷づくりは、自治会の訓練参加者数等のとりまとめ
午前 11 時 00 分から	↓ 報告訓練開始 市災害対策本部に報告 →各郷づくり推進協議会から市へ電話 TEL43-8107（危機管理課直通） ＜電話報告内容＞
（市災害対策本部） （郷づくり推進協議会）	「こちらは、災害対策本部です。」 「〇〇郷づくり推進協議会の△△です。 本日の訓練参加者数は、必須訓練××人、任意訓練は□□人です。負傷者はおらず、資機材、異常ありませんでした。」
（市災害対策本部）	↓ 「〇〇郷づくり推進協議会の訓練参加人数は合計××人、任意訓練参加数は合計□□人ですね。ご報告ありがとうございました。 ＜以上、電話報告終了＞
午前 11 時 30 分まで	訓練終了

※ 実施要領がありますので、お気軽に防災安全課までお問合せください。

４　初期消火訓練（任意訓練例）

（1）目的

消火器、バケツリレー等による初期消火技術を習得する。

（2）訓練内容

◇ 119番通報内容検証訓練

・ 火災なのか救急なのか？
・ 場所や建物の名称、目標物は何なのか？
・ 火災の場合は、「何が燃えているのか？」、「逃げ遅れがいるのか否か？」
・ 救急の場合は、「誰が（何が）どうしたのか？」

※ 電話の内容を聞いた者が、その情報だけで現場が特定できるかを検証します。

◇ 水消火器などによる消火訓練

・ 指導者から、水消火器の使用方法や使用上の注意点の説明を受ける。
・ 火点へ向かって水消火器を使用する。

◇ バケツリレーによる消火訓練

・ 指導者から、バケツリレーの注意点について説明を受け、10～20名程度のグループでバケツリレーを行う。
・ 消防用水利は、防火水槽や用水など地域内で利用できる水利とする。

◇ 煙道体験訓練

・ 指導者から、煙の特性や人体への影響について説明を受ける。
・ 煙を充満させた煙道体験テントの中に入り、火災現場を疑似体験する。
・ タオルなどで鼻と口を覆い、呼吸を小さく鼻でする。
⇒肺に入れない。

※　煙道体験訓練は、消防署の指導に従ってください。

5　避難誘導訓練（任意訓練例）

（1）目的

安否確認や傷病者等の搬送を含む、安全な避難誘導方法を習得する。

（2）訓練内容

◇ 自宅から一時避難場所まで

・ 自主防災本部の指示を受け、情報班とともに一時避難場所に避難するよう伝達する。
・ この際、一人暮らしの高齢者や聴覚障がいのある人等の情報伝達・避難誘導には特に配慮する。

◇ 一時避難場所から市指定避難場所まで

・ 一時避難場所で人員点呼し、安否確認を行う。
・ 負傷者や病人などがいる場合は、情報班にその旨を伝え、指定避難場所までの避難誘導方法（協力人員の要請を含む。）を検討する。
・ 市指定避難場所までの避難経路を確認し避難を開始する。
・ 避難に当たっては、避難者の前後に立ち誘導する。
・ 避難の途中では、事故防止に留意する。
・ 倒壊の危険があるブロックや塀を避け、高齢者や子供などのペースで避難する。
・ 市指定避難場所に到着したら、直ちに点呼をとり、全員の無事を確認した上で、完了した旨を情報班に伝える。

※ 事前に自宅から避難場所までの危険個所を確認することが大切です。

6　応急手当等救護訓練（任意訓練例）

（1）目的

傷病者の応急手当の方法を習得する。

（2）訓練内容

◇ 骨折している場合

・ 骨折している箇所に添え木を当て、骨折部分を三角巾などで固定する。
・ 添え木がない場合は、代用品（雑誌、傘、割り箸など）を使用する。

◇ 出血している場合（直接圧迫法）

・ 出血している場合は、きれいなガーゼやハンカチを当て強く押さえる。
・ 出血が止まらない場合は、更にガーゼを重ね幅広い包帯やタオルで縛る。

◇ 出血している場合（間接圧迫法）

・ 足や腕などから出血したときは、親指や手のひらで傷口から最も心臓に近い動脈を、強く押さえ血の流れを止める。
・ 傷口の直接圧迫だけでは不十分な場合に行う。

◇ 止血帯法

傷口を強く押さえても出血が止まらない時は、以下の対応をとる。

・ 傷口の少し上（5㎝以上）を、タオルなどの丈夫な布で緩めに結ぶ。
・ 結んだ布の下に折れない棒などを差し込み、この棒を血が止まるまで静かに回す。
・ 出血が止まったら、棒が動かないようにハンカチで固定する。

※ このほかAEDの使用もあります。訓練の際は、指導者から説明を受けてください。

7　防災資機材取り扱い訓練（任意訓練例）

（1）目的

　自主防災会が保有している資機材を実際に使ってみて、災害発生時にこれらの資機材を迅速、安全に準備できるようにする。

（2）訓練の編成

・ 指導係　各資機材ごとに1名
・ 安全係　各資機材ごとに1名
・ 訓練参加者　10名1組で3班を編成　※防災資機材が3種類の場合

（3）準備用品

発電機、ポーダブル蓄電池、折りたたみ担架、折りたたみ車いす、簡易トイレ等

（4）訓練手順

・ 最初に、訓練の狙い、実施要領等について説明する。
・ 訓練参加者を3班に区分し、各資機材20分ずつローテーションして体験する。

（5）その他

・ 時間の許す限り、努めて多くの参加者が実際に資機材を扱えるように配慮する。
・ 安全確保のため各班に安全係を各1名配置し、訓練実施中の危害防止に努める。
・ 指導係の方は事前に担当資機材の操作方法等について十分に習熟しておく。

※ 防災資機材を展示し住民の方にみてもらうだけでも防災意識啓発の効果があります。

8　図上訓練（任意訓練例）

（1）目的

自分の住む地域を防災上の観点から見直して、各特性等について地図上に記入し、災害時の対応を容易にする。

（2）訓練内容

◇ 全般説明

・ 訓練の進め方について説明する。

・ 3 分ほどで、班毎に自己紹介と進行係を決めてもらう。

◇ 地域の特性

・ 自治会等の境界、広場、学校、神社、公民館、避難所、河川、ため池、水路、消火栓、防火水槽、井戸、空き家等を地図に記入する。

◇ 班内討議

・ 作成した図を元に地域内の災害の特性、災害発生時に予想される問題点等について班毎に検討し、発表する。

◇ 振り返り

・ 班内討議で検討した内容を各班代表が順次発表し、防災情報の共有化を図る。

９　簡易水防工法訓練（任意訓練例）

（1）目的

家庭内にあるもので、水の浸入を防ぐ方法を習得する。

（2）訓練内容

◇ 簡易水のう

・ ごみ袋を二重または三重にして、水をごみ袋の半分程度まで入れ、きつく縛る。
・ 作成した水のうを出入り口などに隙間なく並べる。
・ 作成した水のうをダンボール箱に入れ、連結させて使用する。
　※ 水のうに比べて強度が増し、中に詰める水のうも積み重ねて使用することができます。

◇ 止水板

・ 出入り口などに長目の板などを立てかけて固定する。
　※ 板がない場合は、テーブルやタンス、事務用ロッカー、畳などで塞ぎ水の流入を防ぐこともできます。

★ 増水した場合の履物は、長靴だと水が入ると動けなくなるので、スニーカーなど脱げにくいものがよいです。

※ 簡易水防工法は、あくまでも小規模な水災で、水深の浅い初期の段階での対策ですので、雨量や浸水の状況を見極め、危険を感じる前に早めに避難しましょう。

令和 6 年度に実際に行われた任意訓練（順不同）

実施主体	訓練場所	訓練概要	感想など	参加人員
勝浦地域郷づくり推進協議会	勝浦小学校体育館	一次訓練でタオル掛け訓練を実施 小学生の保護者や地域住民が二次訓練に参加し、以下を実施 ・防災〇×訓練 ・手作り防災グッズ展示 ・体験訓練：救命訓練、応急担架の作り方、水消火器訓練、煙道体験、揺れ体験 ・防災非常食の試食会：中学生ボランティアと市職員が調理 ・小学生の引き渡し訓練	・昨年度と同様の内容であったが、地域参加者が減少したため、数は昨年度よりも減少した。 ・防災非常食の調理や会場設営・運営を中学生ボランティアに任せることができたことはよかった。	110 人 小学生 85 人含む
津屋崎地域郷づくり推進協議会	津屋崎中学校	・過去の災害写真展示及び DVD 映写 ・防災備蓄品紹介：発電機、投光器、簡易トイレ、簡易担架、折り畳みリヤカー、車いす、ダンボールベッド、間仕切り、AED ・救急救命訓練：AED・人工呼吸の仕方（福津消防署指導） ・シェイクアウト訓練：地震装置上での訓練 ・初期消火訓練：水消火器（市消防団第１分団指導） ・放水体験：消防車から放水（市消防団第１分団指導） ・模擬避難所体験：武道館 ・GIT 発表（1 年生）	・毎年同じような体験型訓をだが、近隣自治会からの参加は 90 人程度で、マンネリ化の訓練に関心が薄いように感じられた。 ・参加してくれた小学６年生は、模擬避難所での訓練、郷づくり任意訓練や水消火器訓練や放水体験に参加し、よい経験ができたのでは。 ・参加してくれた中学生は、自治会ごとに分かれ、各々が防災訓練に向けた会議の中で自主的に役割分担を行い訓練に参加した。 ・近隣住民の参加が年々減少傾向にあることは事実であり、自治会訓練の参加者も含めたところの早急な対策が必要となる。	533 人 津屋崎小学校 160 人 津屋崎中学校 274 人 近隣自治会 90 人 郷づくり関係者 9 人 福津消防署 10 人 市消防団 10 人

実施主体	訓練場所	訓練概要	感想など	参加人員
須多田区	区内	災害に備えた備蓄品についての共有	幅広い年代で多くの参加者があった。	48 人
末広区	区公民館	AED 使用法の教育	講師の実演を交えた教育により、参加者に体験もしてもらえた。	25 人
渡区	区公民館	災害時のけが等の応急対応についての教育（骨折・やけど・出血等の対応、傷病者の搬送方法、応急手当の方法、レジ袋を使った三角巾の作り方や毛布を使った応急担架の作り方の実践）	積極的な姿勢で訓練に臨んでくれた。	52 人
東町 1 区	津屋崎中学校	郷づくり推進協議会主催のプログラムに参加	津屋崎小学校（6 年生）、津屋崎中学校の生徒さんたちが真剣に取り組み、防災意識が向上する意義ある体験ができた。	6 人
東町 2 区	津屋崎中学校	郷づくり推進協議会主催のプログラムに参加	AED の操作体験など中学生が真剣に取り組んでいた。展示品の内容は、備蓄食料やおにぎり、水の配布、ペット対応パーテーションなど実践的にブラッシュアップされていると感じた。	6 人
天神町区	津屋崎中学校	郷づくり推進協議会主催のプログラムに参加	防災用品の紹介等、実物を見られて大変参考になった。特に簡易トイレ等の備蓄は現実的であり、実現性が高いと思う。飲料水等の備蓄もしたいが、保管場所の確保が難しく課題である。	30 人

実施主体	訓練場所	訓練概要	感想など	参加人員
岡の 2 区	宮の元公園	・阪神淡路大震災の体験者原稿による学習 ・配布した防災用品の展示、携帯トイレの使用方法解説 ・防災笛の配布 ・片付け共同作業 ・郷づくり推進協議会への参加人数の報告訓練	・地域在住者の阪神淡路大震災体験談をもとにケーススタディを行うことができた。体験者である方にしか伝えられない内容ばかりで、発災から一息つけるまでの間の緊張感、恐怖、家族の判断、備える大切さ等を皆さんに伝えるよい機会にできた。 ・携帯トイレの使用方法を知らない方が多く、説明と実演を行って理解してもらった。ポータブルトイレの展示、説明も行い、30 分程度の訓練ではあったが、単独自治会組織訓練としては、内容は濃かったと思う。	102 人
岡の 3 区	津屋崎中学校	郷づくり推進協議会主催のプログラムに参加 ・災害写真、防災備蓄品等鑑賞	津屋崎地区は災害が少ないためか参加者が少ない。今後、高齢で参加できない方々に対し自治会としてどのように対応していくか課題が残った。	4 人
新町区	津屋崎中学校	郷づくり推進協議会主催のプログラムに参加 ・消防自動車による放水要領体験、消火器での消火体験 ・AED 体験学習、防災備蓄品や住宅用火災警報器の各種展示品の見学、地域のハザードマップ質問での理解促進	訓練での体験を得て、防災に対しての理解がより深まった。	26 人

実施主体	訓練場所	訓練概要	感想など	参加人員
北の１区	区内	・第 1 避難場所から第 2 避難場所への避難訓練 ・タオル掛け訓練、隣人の安否確認訓練	独自の訓練はこれがベストかと思うが、他に避難場所や避難内容を検討しなければならない時期かもしれない。 まだ、各自の防災意識に温度差があり、この地域は災害が少ないという考えは変えていかなければならない。	28 人
北の２区	津屋崎中学校	郷づくり推進協議会主催のプログラムに参加	・AED や人工呼吸訓練などに中学生が参加して真剣に取り組み、頼もしいと思った。継続した訓練が必要だと思う。 ・高齢者は逃げることで精一杯（階段の上り下りなど)。訓練は日頃からの備えが大切だと実感した。	1 人
新東区	津屋崎中学校	郷づくり推進協議会主催のプログラムに参加 ・起震装置によるシェイクアウト訓練、避難所開設、救急救命訓練（AED・人工呼吸)、消防放水体験などを見学	形骸化している自主防災組織（自治会）の再構築が急務である。	75 人
宮司地区郷づくり推進協議会	宮司運動ホール	中学生を主体とした訓練 ・AED、救急救命講習（福津消防署指導） ・危険個所マップの確認 ・防災講話 ・防災食（アルファ化米）の試食	・救急救命講習に多くの中学生が参加し、大半が初めての経験で、いざという時に役立つ講習になった。 ・中学生は災害発生時に一般の方の力に役立つので、今後もこのような講習を継続していきたい。	250 人 中学生 約 200 人 一般 約 50 人

実施主体	訓練場所	訓練概要	感想など	参加人員
宮司 1 区	区内	AED、心臓マッサージの講習	関心をもたれた方が多く、熱心に話を聞かれていた。	5 人
星ヶ丘区	区内	止血方法、骨折の手当の仕方、紐の結び方、簡易担架作成の実演	昨今の気候変動の中、自助・共助が必要。	64 人 中学生 16 人含む
本町区	区内	初期消火訓練		31 人
大和 1 区・2 区	大和公園	・初期消火訓練 ・救護訓練		150 人
花見総区自治会	福間中学校体育館	応急手当講習会（福津消防署指導）		31 人
福間南地域郷づくり推進協議会	イオンモール福津駐車場内	・福間南一斉避難訓練 ・救護訓練参加 ・特殊車両のパレード参加		757 人
光陽台 1 区	区内	発電機運転訓練 〈災害発生時に発電機を迅速、安全に準備できるように、体験、見学を行う。〉	・発電機は女性も簡単に操作でき喜ばれた。また、発電機で音響装置を作動させたことで、説明や指示が行き届き喜ばれた。 ・特技や経験職の共有を行い、医療、介護、保育、電気、土木経験などの救護チームを地域で作れるとよい。	100 人

実施主体	訓練場所	訓練概要	感想など	参加人員
神興地域郷づくり推進協議会	神興郷づくり交流センター	アンサーバック機能操作習熟〈神興地域郷づくり協議会のメンバーに小学校敷地内に設置されている福津市防災行政無線の取り扱い習熟を行う。〉		25 人
手光区	担当区域内	HUG 研修：避難誘導ゲーム/避難所を開設するためにグループで課題に取り組みながら解決していく。 講師：合同会社あっと・こにゅにてぃ（福津市未来共創センター）代表　宮本裕子様	研修受講後の意見 ・災害時、避難所の水が使用可能かどうかによって状況が変わると感じた。 ・時間的推移とともに、情報量が増加していくため、その整理・共有法の重要性を認識した。 ・参加者にシニアの男性が多く、女性の視点での考えに及ばなかった。	10 人 自治会役員
東福間6 区	区内	・防災に関する講話（福津消防署） ・消火器の取扱法実習（同上） ・参加者へ非常食の支給	・講話はとても理解しやすく勉強になった。 ・消火器取り扱い実施は、何度やっても大事だと思う。 ・防災訓練日に防災研修会を実施したら盛り上がると思うので検討したらよいと思う。	35 人
東福間8 区	区内	対策本部設置し、実際に、総務、供給、環境、福祉に分かれ、一連の流れを住民と共有する。 受付、情報の把握	対策本部に関しては、すごくスムーズに事が運んだ。役員が自身の役割をよく理解できていたおかげだと思う。	30 人

実施主体	訓練場所	訓練概要	感想など	参加人員
東福間 11 区	区内	消防士による AED の使用法・心肺蘇生法・水消火器の使用法の講習	参加者が各教育に熱心かつ積極的に取り組んでよかった。	27 人
光陽台 4 区	光陽台 6 号公園	初期消火訓練及び放水消火体験（市消防団第 8 分団指導） ・水消火器による初期消火訓練 ・消防車を活用した放水消火体験	・消防団との連携訓練は、日常生活における災害予防の意識付けに効果的であった。特に放水体験は、ノズルが新しく、参加者から積極的な申し出が多く、独自訓練として効果があった。 ・小学校の行事と重なったため、子どもの参加がなく、少し寂しい訓練となった。	90 人
光陽台 6 区	区内	・避難訓練時にタオル掛け訓練を実施 ・水消火器体験訓練 （市消防団第 3 分団指導） ・防災士会による防災講話	水消火器体験訓練は、大変盛り上がって実施してよかった。防災士会による講話も防災の重要性等、役立つ内容であった。	231 人
通り堂区	区公民館	AED、人工呼吸、簡易担架作成などの訓練	・AED に関する質問が多く、関心の高さが感じられた。 ・消防署員の説明が非常にわかりやすく、緊急事態に遭遇した場合の対処法を共有することができ、有意義な時間を過ごすことができた。	36 人
津丸区	区内	・防災マップの説明 ・段ボールベットの体験 ・防災バックの確認 ・非常食の配布	防災バックの内容について、参加者と会話しながら、その他に必要な物がないかなど意見交換を行い、有意義な時間となった。	34 人

実施主体	訓練場所	訓練概要	感想など	参加人員
久末区	区内	・安全確認連絡網の周知 ・簡易担架の作成講習	・共助には、日頃からのコミュニケーション（近所付き合い）が一番大事だと考える。 ・区民間の協力体制及び連絡体制を確認した。	25 人
八並区	区内	・防災マップを活用し、土砂災害による危険度を共有（区内の大雨被害に対する注意喚起や避難場所の確認） ・初期消火訓練	・区域内に土砂災害危険区域及び土石流発生の危険区域が点在していることから、その危険度を参加者間で共有した。 ・公民館を自主避難場所として開放するよう確認した。 ・水消火器を用いた初期消火訓練の評価が高かった。	44 人
桜川区	区公民館	防災士による防災講義	今後に役立つ内容だった。	20 人
若木台1区	区内	・LINE やメールを活用した、各組長への避難誘導及び連絡訓練 ・避難者台帳を用いた記帳訓練 ・車いすを用いた、介助及び使用法訓練 ・非常食配布訓練	・防災本部（三役）から各組長へ LINE を使って各組の安否確認と避難場所の共有を行ったところ、スピード感ある相互連絡ができたため、今後も活用したい。 ・理学療法士の資格を持つ会員から、車いすの使用方法及びけが人等の搬送方法について学ぶことができた。 ・郷づくり協議会協賛の非常食が参加者に大変喜ばれた。	79 人

実施主体	訓練場所	訓練概要	感想など	参加人員
若木台 2区	区内	・避難台帳訓練 ・組別避難人員把握訓練 ・非常食配布訓練	昨年より参加者が増加し、とてもよい訓練となった。	174人
若木台 3区	くるみ 公民館	・仮設避難所の開設、要介助者の避難誘導訓練 ・水消火器操作訓練 ・応急手当訓練 （NPO法人「ｼｪｰﾊﾞｰ風ｼﾞｬﾊﾟﾝ」指導） ・炊き出し訓練	・今年からの取組みとして、育成会を中心としたこどもが参加したことは、これからの防災意識向上に効果的と思われた。 ・支給された非常食（カロリーメイト）がこどもたちに大好評だった。	110人 うち、 こども30人 来賓2人
若木台 4区	区内	消防団による初期消火訓練	実際に初めて消火器に触れる人はかなり勉強になったと思う。消火器2台では少ないと感じたが、有意義な訓練だった。	71人
若木台 5区	区内	・消防士による講話 ・救急救命士による心配蘇生法、AED講習 災害時における「公助・自助・共助」の重要性の教育及び災害がもたらす脅威について認識を共有した。	とても分かりやすく、質問形式で進めてくれたので、学びながら話を聞くことができた。また、心肺蘇生法、AEDの扱い方について人形を用いての実施で、とても分かりやすかった。	79人
若木台 6区	区内	・避難訓練時にタオル掛け訓練を実施 ・心肺蘇生法、AED講習		60人
あけぼの 区	区内	・防災講話 ・発動機の使用法について教育 ・備蓄食料の試食	参加者が真剣に話を聞いてくれていた。	79人

実施主体	訓練場所	訓練概要	感想など	参加人員
三角区	区内	防火訓練（消火栓の使用法・ホースの取扱法）	年に 1 回の防火訓練だったので、忘れていたことを再確認することができた。女性も実際に操作してみて、できるようになったことは一つの収穫だった。	15 人
上西郷自治区	区内	・地震に関する教育 ・非常持ち出し品の確認 ・ハザードマップを用いたリスク把握	・多くの人が集まり、様々な意見を出し合うことができた。 ・郷づくりから支給された担架を用いて、組み立てから搬送まで体感することができてよかった。	19 人

令和7年度福津市一斉防災訓練　任意訓練実績一覧

訓練団体	訓練概要	訓練場所	参加人数	感想など
勝浦地域郷づくり	防災〇×クイズ、手作り防災グッツ展示　体験訓練：救命訓練、応急担架の作り方、水消火器訓練、煙道体験、揺れ体験、及び非常食炊き出しと試食	勝浦小	173	二次訓練も昨年と同様の内容であったが、地域参加者が減少したため、数は昨年度よりも減少した。防災非常食の調理や会場設営・運営を中学生ボランティア・市職員とで行い美味しいと評判になった。中学生ボランティアに任せることができたことは良かった。最後は小学生の引き渡し訓練で終了。
津屋崎地域郷づくり（岡の2、岡の3、新町、東町1、東町2新東区参加）	災害写真展示・防災備蓄品紹介・救急救命訓練・初期消火訓練・放水体験・模擬避難所体験	津屋崎中学校グラウンド	410	毎年同じような体験型訓練を実施しているので、新たな試みでカレー300食分を用意したが、関心が薄かった。中学3年生は下級生を指導しうまくまとめていた。小学6年生も見学した。中学校とは前もって協議してきたが当日うまくいかないところがあり、打ち合わせが十分とは言えなかった。消防署や消防団との打ち合わせは電話のみで、次回は会議の場が必要だと感じた。
宮司地区郷づくり（宮司7自治会合同）	地域合同訓練	宮司コミュニティセンター	202	消防団第2分団と第5分団の協力のもと、地域住民と中学生が模擬避難所運営で受付、救急、屋外テント設営、炊き出しに参加し、簡易担架訓練や民間施設を使った垂直避難を実施した。
星ヶ丘区	防災訓練講義	星ヶ丘公民館	78	スライド・動画（星ヶ丘50年の記録）を見て地震災害からの避難等の講義を受けた。続いて止血や水難救助のロープワークを中学生が実演した（中学生17人参加）。
上西郷地域郷づくり	「上西郷防災フェスタ」を開催	上西郷小学校	350	必須訓練後、上西郷小学校に移動。防災ゲーム、消防団模擬消火、防災関連ブース展示、自衛隊炊出し訓練等を実施した。
花見総区(花見1.2.3.4区）	応急手当講習会	福間中学校体育館	522	宗像消防本部署員による応急手当講習会を実施した。
大和1区福寿会(シニアクラブ）	防災講座・アルファ化米の配布等	大和公民館	13	”学ぼう！男女がともに歩むまちづくり講座”を同時に実施した。
西福間1区	安全確保行動の事前実施	各家庭	602	一斉防災訓練と家庭でもできる防護訓練の実施要領に基づき安全確保行動の事前実施を呼びかけ、ほぼ90%の世帯で取り組んだ。
緑町区	福間小への徒歩移動を実施	緑区自治公民館→福間小学校	27	水害、地震災害を想定した5ルートの避難を実施し、各班ごとの意見を集約し、より安全なルートを検証する。
四角区	水消火器、人工呼吸、AED訓練	白菊幼稚園グラウンド	200	日頃からの継続した訓練が重要だと感じた。
両谷区	消防士による防災講話、消火器取り扱い訓練、防災服の試着	両谷公民館	76	消防士による講話で、実際の火災現場での体験事例を交えた説明があり、参加者全員が真剣に耳を傾けていた。
光陽台1区・2区	1区テント設営訓練、消防士による消火器、応急手当訓練、防災倉庫資材、防災リュックの展示、DVD放映	光陽台第1公園、光陽台公民館（展示）	114	今後は、2区・3区でもテント設営体験が必要と意見が出た。消火器訓練は「ピノキオ」（ピンを抜く）・ノズルを持つ・距離を考える・押す）を合言葉に実施した。応急手当訓練では、血液感染への意識が薄いことに気づいた。1区・2区合同で実施したことで時間調整が難しい場面もあったが、協力体制はできた。展示では、各家庭で備える防災グッズへの関心が特に高かった。
光陽台3区	災害用備蓄品の確認、カセット式発電機の操作、非常持出リュックの展示	光陽台第4公園	12	発電機付属の電気コードや照明灯も一緒に保管する方がよいとの意見により、倉庫に移動した。

令和7年度福津市一斉防災訓練　任意訓練実績一覧

訓練団体	訓練概要	訓練場所	参加人数	感想など
原町１区	防災カードゲーム「クロスロード」	原町公民館	28	災害時の状況を想定して対応力や判断力を養う訓練を行った。活発な意見交換が行われ、新たな気づきが多くあった。多様な立場、考え方があるので、判断、対応の難しさを実感した。
有弥の里１区	防災士の防災講話、簡易担架作成、防災〇×クイズ	有弥の里西公園	110	講話は立ったまま聞いたため、もう少し短時間にまとめるようお願いすればよかった。地震に備えた防災講話については、11月末にあらためて時間をとって実施する予定。避難訓練は、今回限りではなく、定期的に実施していく事が望ましいと感じた。
有弥の里２区	80歳以上の高齢者及び身体障がい者のリストアップ及び戸別訪問	対象者の自宅	30	対象者の自宅を訪問し、防災パンフレットと粗品を配布したが、粗品は笛が最も人気であった。
日蒔野６区	安否確認メールの一斉配信、高齢者世帯への巡回訪問	自治会会員自宅	108	指定メールアドレスへ、氏名、住所、人数、緊急連絡先を返信してもらい、回答を収集した。今後返信数を増やす工夫が必要であると感じた。
手光区	防災学習	手光区自治公民館	21	はじめにふくつ防災士会による講演を聞き、グループ毎に防災ゲームを実施した。
東福間６区	徒歩訓練、非常糖食（菓子詰め合わせ）支給	東福間６区域内	36	高齢化が進み、腰や膝の故障者が多く、任意訓練に参加できない人が多かった。
東福間８区	救助者がいる時の対処法のｼｭﾐﾚｰｼｮﾝ、手づくり防災グッズの作成	集会所横	30	雨や風、寒さを防ぎ、高齢者でも作成できるポンチョづくりが好評だった。
東福間９区	消防団6分団指導の下、水消火器による消火訓練	神小体育館前、神興幼稚園前	9	消火器の取り扱いを検証でき、有意義な訓練だった。子どもも積極的に訓練に参加していた。
東福間１０区	防災士の講話	さくら公園	75	10区在住の防災士の講話を聴き、具体的かつ簡潔な内容で、今後に役立つ資料をいただいた。
東福間１１区	1.心肺蘇生（胸骨圧迫と人口呼吸）住民実演 2.AEDの使い方 3.止血法(圧迫止血） 4.喉に詰まらせた場合の対処法(背部叩打法・腹部突き上げ法） 5.マンション常設のAEDの使い方(実際にやってみせ）	福間ｽﾃｰｼｮﾝｶﾞｰﾃﾞﾝのﾊﾟｰﾃｨｰﾙｰﾑとﾛﾋﾞｰ	25	約1時間の講習であったが、非常にわかり易かった。反応を見る方法で、眼(付近)を見るとわかり易いとの説明は初めて聞く内容だった。短い時間で喉のつまり、止血方法までを的確に指導。さらに、実際に設置されているAEDを取り出す方法をやって見せたのは皆さんも非常に収穫だったのではと感じています。
光陽台４区	初期消火訓練、放水消火訓練	光陽台６号公園	90	消防団第7・第8分団指導の下、水消火器による初期消火訓練、消防車を活用した放水消火体験を実施。日常生活での災害予防への意識づけができた。また放水体験には積極的な申し出が多く成果があった。
光陽台６区	緊急災害時の対応についてのチラシ配布、初期消火訓練、消防署による防災講話	光陽台６丁目公民館横公園	221	役員会や回覧で周知徹底した結果、参加者が非常に多く、広く草刈りをしておけばよかった。チラシを配布し緊急災害時の対応についての説明ができてよかったし、消防署員の説明がわかりやすく役立つ内容で有意義だった。
通り堂区	負傷者救護のための簡易担架の作成等	定礼公園	54	簡易担架の作成と共に、土砂災害警戒区域を確認し、防災についての基本的な心構え等について共有するなど大変有意義な訓練だった。

令和7年度福津市一斉防災訓練　任意訓練実績一覧

訓練団体	訓練概要	訓練場所	参加人数	感想など
津丸区	救出救護訓練	津丸公民館前広場	41	簡易担架を作成し移動する行動を行うことによって防災の意識が高まっていた。
久末区	事前周知及び簡易担架作成体験	久末公民館前広場	36	有線放送で周知したので、避難場所への集合がスムーズで、9:00にはほとんどの人が集合が完了した。
八並区	救急救命講習	八並区公民館	45	消防署員によるAED、人工呼吸、簡易担架の作成の話を聞いた。人工呼吸は、高齢者には体力不足であること、簡易担架は毛布で簡単に作ることができることを確認した。
若木台1区	LINEによる役員への一斉通知と安否確認及び非常食配布訓練	若木台1号公園	74	LINEによる役員間の連絡はスピーディーかつ状況把握に最適である。郷づくりから協賛いただいたカロリーメイトが好評だった。
若木台2区	避難者台帳記帳訓練、非常食配布訓練等	わかば公園	191	大勢参加し、防災意識が強く感じられた。
若木台3区	消火器操作訓練、応急救護実技訓練、炊出し訓練	くるみ公民館	130	NPO法人セーバー風ジャパンを招き、高度な実技講習を受け効果大だった。青年部と子供10数名が参加し参加者の幅を深めた。反面、高齢者の参加が減り、参加しても短時間で中座する者も出たことが今後の課題
若木台4区	出前講座及び非常持出品の展示等	神興東小体育館	65	ふくつ防災士会の講座は避難所の役割と機能について興味深い話だったが、まだ自主防災組織で運営できる段階になく、ギャップを感じる人がいたのが課題。参加者が持参した非常持出品を展示し、興味深く見学していた。防災ナビまもるくんを周知した。
若木台5区	人命救助訓練	新幹線公園	96	福津消防署消防士と消防団員による止血方法、竹2本で担架づくり、心肺蘇生法、AED取り扱い方法について訓練を実施　初の試みに全員が真剣に参加した。年配者への配慮としてイスを用意したことも良かった。
若木台6区	避難困難者名簿作成及び非常食配布等	かいがら公園	61	事前に避難困難者等を確認し名簿作成したが情報が集まらず困った。高齢化が進み、高齢者の支援体制が必要だと感じた。
桜川区	出前講座	桜川公民館	25	ふくつ防災士会の講話は今後に役立つ内容であった。
三角区	消火訓練	三角公園	14	昨年度の指導者が不在のため、ほとんどの人が覚えてない、ホースが重くてできない等、有意義とは言えない内容だった。マニュアルを作ったら分かりやすいのではないかと思った。
あけぼの区	8月豪雨被害報告及び災害時の対処法の再確認	あけぼの1号公園	57	あけぼの備蓄計画の内容を説明し、災害時の備蓄品の配布手順を再確認した。消費期限が近い備蓄品の配布をし、少しでも参加者の維持に努めた。
		任意訓練参加者数	**4,451**	